小学校におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する一考察（要旨）

～自閉症・情緒障害学級に在籍する児童の交流及び共同学習のあり方に注目して～

総合教育高度化プログラム・特別支援教育サブプログラム

清水 亮太

【指導教員】 山中 冴子 葉石 光一

【キーワード】 インクルーシブ教育システム 自閉症・情緒障害学級 交流及び共同学習 小学校

1. 課題設定

障害者の権利に関する条約では、インクルーシブ教育システムの理念が示され、日本においても様々な関係法の整備が行われてきた。日本型インクルーシブ教育システムにおいては、連続性のある多様な学びの場の充実・整備が求められるとともに、交流及び共同学習の推進が必要とされている（文部科学省初等中等教育分科会，2012）。これは「令和の日本型学校教育」の構築に資するものとされている。

先行研究においては、効果的な交流教育の実践方法の開発が進んでいないこと、交流の効果と実践過程の関係を考慮した研究がほとんど存在しないこと、さらに交流教育の効果検証が健常児に偏っているという課題が指摘されている（楠見 2016）。また、他の先行研究を概観すると、教師等の支援者側から交流及び共同学習を評価したものが多く、

自閉症・情緒障害学級の在籍者数は上昇し続けている。そこで、本研究では、自閉症・情緒障害学級に在籍する児童の視点から交流及び共同学習に効果的に参加するための、教師に求められる手立てを明らかにする。

2. 研究の方法

小学校で自閉症・情緒障害学級に在籍経験のある卒業生で、現在通常の学級での生活が良好、あるいは措置替えされた男児3名を対象に、対面で半構造化インタビュー調査を実施した。質問内容は、①特別支援学級の国語や算数などについて、②特別支援学級の自立活動について、③特別支援学級の仲間・教師について、④交流学級の授業について、⑤交流学級の特別活動について、⑥交流学級の仲間・教師について、とした。すべての質問で特に思い出に残っていること、①②③では交流学級の活動に参加するにあたり役立ったこと、④⑤⑥では助かった配慮や支援についてそれぞれ尋ねた。収集したデータについては、内容のまとまりごとに区切って表にまとめ、分類し、関連を見出していった。本研究は、埼玉大学 研究連携推進部 研究推進・国際連携課 人を対象とする研究に関する倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号 R6-E-24）。

3. 結果と考察

インタビューで語られた内容を整理していくと、下

記のように分けることができた。（大カテゴリーは〔 〕，中カテゴリーは{ }，小カテゴリーは【 】で表す。）まず，〔特別支援学級〕，〔交流学級〕の2つに分類された。それとは別に「現在の自己の気づき」を設定した。

〔特別支援学級〕には，{特別支援学級の授業}，{自立活動}，{休み時間等}の3つに分けられ，例えば{特別支援学級の授業}は，【学習方法・環境調整】【特別支援学級の教師の支援・指導】【交流学級の授業とのつながり】に分類できた。

〔交流学級〕には，{交流学級の授業}，{交流学級と一緒に参加する行事}，{休み時間等}の3つに分けることができた。例えば{交流学級の授業}は，【特別支援学級の教師・補助員の存在】【合理的配慮の検討】【友達の存在】にさらに分類できた。

〔特別支援学級〕では、障害種に適したとされる支援が、本人にとって必ずしも良いと感じるとは限らないことに留意する必要がある。自立活動の「人間関係の形成」や「コミュニケーション」の内容は、交流学級での人間関係の形成に寄与すること、特別支援学級の授業に交流学級の授業内容を意図的に関連づけること、交流学級の授業での困り感を軽減させる取組を特別支援学級で行うことにより、交流学級の授業の参加のしやすさにつながったと考えられる。

〔交流学級〕では、児童の困り感に寄り添った合理的配慮により、交流学級への参加がしやすくなったと考えられる。様々な場面において友達の存在により交流が楽しくなることも言える。

各所で教師の思いと児童の思いには違いがあるということに教師が気づく必要がある。子どもの「声」を聴きながら、特別支援学級の教員と通常の学級の教員が連携していくことの重要性が示された。

4. 本研究の課題

本研究は、調査対象者が3名と限られていた。児童の思いは多様な形で表出されることを考えると、声にならない「声」をどう聴くのかも今後の課題である。

主な参考文献

文部科学省初等中等教育分科会(2012) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/houkou/1321667.htm (2024. 1. 31)
楠見友輔(2016) 日本における障害児と健常児の交流教育に関するレビューと今後の課題. 特殊教育学研究, No. 54(4), pp. 213-222.